

今世紀最大の日本文化・芸術の祭典もいよいよフィナーレ！ 「ジャポニスム 2018：響きあう魂」 2月の公式企画・最新情報のご紹介

2018年7月より約8か月にわたってパリを中心にフランスで開催している日本文化・芸術の祭典「ジャポニスム 2018：響きあう魂」は、いよいよ会期終了を迎え、フィナーレを飾るに相応しい日本を代表する文化プログラムが多数実施されます。これまで、パリを中心にさまざまな公式企画・参加企画が実施し、日本文化と接触する機会を創出してきました。メディアの皆様におかれましては、引き続き貴媒体にて、このジャポニスム 2018 をご紹介下さいますよう、何卒宜しくお願いいたします。

パリ市の人口を超える 260 万人がジャポニスム 2018 を通じて日本文化に接触！

(2019年1月中旬現在の公式企画・参加企画総動員数)

これまでの公式企画の延べ動員数は約 157 万人に上りました。展示会の動員数だけで 100 万人を突破し、中でも約 30 万人の入場者があった「teamLab：Au - delà des limites (境界のない世界)」展は、2018 年中に閉幕したパリの展示会入場者数第 4 位 (テレマ誌発表) にランクインしました。参加企画の動員数約 105 万人と合わせるとパリ市の人口 (約 220 万人) を超える 260 万人以上が「ジャポニスム 2018」を通して日本文化に触れたことになります。会期最後の 2 月となりましたが、その数はまだまだ増える見込みです。

フランスメディアも絶賛！

- パリ、日本の首都になる「これだけの日本文化の真骨頂ともいえる作品、プロジェクトが一堂に会する機会は、今後当分ないであろう。」(テレマ誌)
- 日仏の愛の物語「19 世紀には、印象派の画家たちは、日本の浮世絵にインスピレーションを得たが、今日、漫画、ファッション、美食などが、日本文化に魅了されるきっかけとなっている。」(AFP 通信)
- 日本がエースのフォーカード「どっちを向いても日本だらけ？ 明治・開国 150 周年、日仏外交樹立 160 周年を記念する『ジャポニスム』が最高潮に達しているのだから当然のこと。」(ル・パリジャン紙)

● 注目のプログラム

蜷川幸雄演出『海辺のカフカ』

ニューヨーク・タイムズ「年間ベストブック 10 冊」や、世界幻想文学大賞に選ばれた村上春樹の傑作長編小説『海辺のカフカ』を蜷川幸雄が演出。原作の世界観を世界の二ナガワならではの美しくも壮大なスケールで舞台化し、大きな話題を呼びました。二大巨頭による話題作、パリ初演です。



撮影：渡部啓弘 / 提供：ホリプロ
©Takahiro Watanabe/HoriPro Inc.

日本映画の 100 年

第 2 部-Ⅱ「日本映画再発見 知られざる傑作映画特集」、第 3 部「現代監督特集」

2018 年 9 月から始まった大規模な日本映画特別上映「日本映画の 100 年」がいよいよクライマックスをむかえます。

第 2 部-Ⅱでは、フランスではまだ知られていない名監督の作品と、よく知られている監督の知られざる傑作から、日仏両国の専門家が盛んな議論を重ねて選定した 32 本を上映します。第 3 部では、2018 年に公開された最新作も含め、日本映画界を牽引する巨匠から今をときめく若手監督の作品まで、日本映画の「今」を伝える作品 37 本を上映します。期間中には、役所広司さん、常盤貴子さん、宮崎あおいさん、大林宣彦監督、細田守監督など、上映作品の出演俳優・監督ら超豪華ゲストを多数会場にお招きし、パリの映画ファンとの交流トークイベントも行われる予定です。



『花雀 / HANAGATAMI』
©唐津映画製作委員会 / PSC 2017

※詳細は別添の 1 月 23 日付プレスリリースをご覧ください。

報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局 / ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp



● 2月から始まるジャポニスム 2018 公式企画ラインナップ

◀ 展覧会 ▶

タイトル	会期	会場
「BEYOND EAST & WEST 日本の伝統美が鮮やかに蘇る」展	2月19日(火)～23日(土)	パリ日本文化会館

◀ 舞台公演 ▶

タイトル	会期	会場
能楽	2月6日(水)～10日(日)	シテ・ドラ・ミュージック
蜷川幸雄演出『海辺のカフカ』	2月15日(金)～23日(土) (2月18日休演)	国立コリヌス劇場
2018 ジャпон×フランス プロジェクト (日本の障害者による舞台芸術の発信/瑞宝太鼓 in フランス)	2月23日(土)～24日(日) 2月27日(水)～28日(木)	ナント公演 フランス国立現代芸術センター リュー・ユニック パリ公演 パリ日本文化会館

◀ 映像 ▶

タイトル	会期	会場
日本映画の100年 ②-2 日本映画再発見 (知られざる傑作特集) ③ 現代監督特集	②-2 1月23日(水)～2月25日(月) ③ 2月6日(水)～3月19日(火)	②-2 シネマテーク・フランセーズ 他 ③ パリ日本文化会館、シネマテーク・フランセーズ 他

◀ 生活文化他 ▶

タイトル	会期	会場
「日本の食と文化を考える」シリーズ 食文化シンポジウム	2月4日(月)～5日(火)	ソルボンヌ大学
日仏ダイアログ② 俳句討論会「クローデルの日本―『百扇帖』をめぐって」	2月5日(火)	パリ日本文化会館
伝統工芸シリーズ 伝統と先端と―日本の地方の底力	2月5日(火)～16日(土) 2月20日(水)～24日(日)	パリ日本文化会館 エスパス・コスモポリス(ナント)
高校生プレゼンテーション発表会	2月9日(土)	パリ日本文化会館
柔道 ジャポニスム 2018 JITA-KYOEI PROJECT 4. 展示、形のデモンストレーション	2月9日(土)～10日(日)	アコーホテルズ・アリーナ
「日本の食と文化を楽しむ」シリーズ 日本のお酒試飲の夕べ(第2弾)	2月11日(月) 島根県のお酒の回 2月25日(月) 奈良県のお酒の回	Virtus Cave « Soif d'ailleurs »
「日本の食と文化を学ぶ」シリーズ 日本食アトリエ<子供向け>	2月23日(土)	パリ日本文化会館
茶の湯	2月23日(土)、24日(日)	パリ市立ブティ・パレ美術館

報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内
担当：浅野憲央(070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

「展覧会」
「BEYOND EAST & WEST 日本の伝統美が鮮やかに蘇る」展

日本の伝統技術にロマンを吹き込み「和と洋」を融合したファッションをパリで発表し続けている桂由美。「花で架け橋」を世界につくり続けている KAORUKO は花で日本の美を表現。日本の美をオールハンドメイドのコスチュームジュエリーで表現したジュエリーデザイナー3名。ファッションとフラワー、そしてジュエリーで「日本の伝統美」を表現します。


日本の美をまとう——オートクチュールデザイナー桂由美

2003年からファッションの都パリでコレクションを発表している桂由美は、日本の伝統美とドレスの融合「和と洋の融合」をテーマにしています。友禅、西陣織など日本が誇る伝統美を新しいファッションとして発信。

2012年からは、江戸時代に活躍した絵師、伊藤若中、鈴木其一、葛飾北斎に注目し、画家の個性的な造形美と鮮やかな色彩のコントラストを手描き友禅、西陣織、刺繍を駆使して、現代ファッションに甦らせました。今回は、パリのコレクションで発表した8作品を展示します。

コスチュームジュエリー「展示作品」

斉藤佳代子作「絆〜束ね熨斗に顔を込めて〜」 / 川島宏子作「歌舞伎“連獅子”」 / 宇内美子作「雅の愛」 / 八釘淳子作「憧れの九谷 焼〜赤絵金襴手〜」

日本の美を飾る——フラワーアーティスト KAORUKO

フラワーアーティストとして「世界に花の架け橋」をライフワークに、フランス、イギリス、アメリカ、トルコ、タイなど世界各国で花を通して交流を行っています。世界でショーをし続けるうちに日本の美を再認識しました。

日本の伝統のいけばなを踏襲するのではなく、西洋と和の融合、日本の精神性をも加えた「和モダン」の作風。世界の若者から注目されている「かわいい」「ポップカルチャー」なども取り入れた新たな花の世界を追求しています。

今回も「西洋と和」の融合をコンセプトにフランスでも知られている「わびさびの世界」「盆栽」「クールジャパン」などをテーマとしたオリジナルティのある作品を展示します。

「舞台公演」

野村萬、梅若実、浅見真州ら現代一流の能楽師が本格的能舞台で日本文化の精髓である能楽を披露する公演です。

能楽

野村萬、梅若実、浅見真州ら現代一流の能楽師の出演により毎年東京の国立能楽堂で開催している「日経能楽鑑賞会」のパリ版ともいべき公演です。

能楽の原点として別格に扱われる『翁』に始まり、恋をめぐる怨念が渦巻く『葵上』、優艶な敗者・平清経の悲しみを描く『清経 恋之音取』、夫の留守を預かる妻の恋慕から絶望へ至る『砧』と、能の傑作が上演されます。

狂言では人間国宝の野村萬らによる『木六駄』、『二人袴』が上演されます。

屋根・柱・橋掛かり・鏡の間付きの本格的能舞台、能装束、構成などすべてにおいて、これまでの能楽海外公演ではなし得なかったレベルの公演がパリで実現します。



『木六駄』(シテ・野村萬) ©前島写真店



『清経』(シテ・梅若実) ©前島久男

お知らせ

本公演に出演する野村萬さん、梅若実さん、浅見真州さんの3名が、フランス共和国政府より芸術文化勲章を叙勲されることになりました。授与式は2019年2月10日(日)公演終了後(20:00目途)、フランス文化大臣出席のもと下記会場内にて行いました。

シテ・ドラ・ミュージック (住所: 221 Avenue Jean Jaurès, 75019 Paris (19区))

■叙勲内容

野村萬さん: 芸術文化勲章オフィシエを受章

梅若実さん、浅見真州さん: 芸術文化勲章シュヴァリエを受章

『砧』(シテ・浅見真州)
©神田佳明


■芸術文化勲章について

フランス共和国文化省により1957年に創設された勲章で、芸術・文学の領域での創造、もしくはこれらのフランスや世界での普及に傑出した功績のあった人物、フランス文化の紹介者、普及の実務者や支援者が叙勲の対象となるものです。勲章にはコマンドゥール、オフィシエ、シュヴァリエの3段階があります。フランス文化省が推薦し、文化大臣が決定権をもつものです。日本ではこれまで川端康成さん、坂本龍一さん、松本零士さんなどが叙勲されています。

報道関係者からのお問い合わせ先:

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当: 浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所: 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL: 03-6894-3201 FAX: 03-5413-3050 E-mail: japonismes2018@ssu.co.jp

2017年フランス・ナント市で大絶賛された知的障害者によるプロの和太鼓集団「瑞宝太鼓」の公演を中心に、日本の障害者の優れた舞台芸術をフランスから世界に発信。

2018 ジャпон×フランス プロジェクト (日本の障害者による舞台芸術の発信/瑞宝太鼓 in フランス)

年間約100回の公演活動、500回を超える講習活動や社会貢献活動、そして、スペイン、アメリカ、オーストラリア、マレーシア、スウェーデン、フランスの6か国で海外公演を行うなど、国内外において高い評価を受ける瑞宝太鼓の公演ほか、フランス共同団体のディレクターが選考した、障害者らで構成するダンスカンパニー等の作品を上演する予定です。



©松永育子 Matsunaga Ikuko

《生活文化他》

「日本の食と文化を考える」シリーズ 食文化シンポジウム

パリにおける日本人シェフの目覚ましい活躍、「和食」のユネスコ無形文化遺産登録等の日本食を巡る近年の動きも踏まえて、日仏の専門家が「うま味」や日仏食文化の共通性などをトピックに考察するシンポジウムを開催します。



日時：2月4日（月）9：00～18：00（途中昼休憩挟む）

会場：ソルボンヌ大学講堂 Amphitheatre Liard

登壇者：

【日本側】

高橋拓児（料亭「木乃婦」代表取締役）

玉村豊男（(株)ヴァイデストワイナリーオーナー、エッセイスト）

福田育弘（早稲田大学教育・総合科学学術院複合文化学科教授）

伏木亨（龍谷大学農学部食品栄養学科教授・同大学食の叢子研究センター長）

Nicolas Baumert（名古屋大学教養教育院准教授）

【フランス側】

Vincent Moriniaux（ソルボンヌ大学 ENEC 教授）

Jean-Robert Pitte（ソルボンヌ大学名誉教授）

Pascal Barbot（レストラン Astrance オーナーシェフ）

Grégoire Boeuf（フランス・ペリュサン所在の日本酒製造者）

報道関係者からのお問い合わせ先：

（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

日仏ダイアログ②

俳句討論会「クローデルの日本—『百扇帖』をめぐる」

ポール・クローデル（1868–1955）が、日本大使として勤務した最後の年にまとめたフランス語の句集『百扇帖』(Cent Phrases pour Évantails, 1927)について、クローデル生誕 150 年である 2018 年に、フランス、アメリカの俳人/俳句研究者と現代日本の前衛俳人、そして比較文学者の視点から捉え直します。

登壇者：

芳賀徹（国際日本文化研究センター名誉教授、東京大学名誉教授）

金子美都子（聖心女子大学名誉教授）

夏石番矢（明治大学教授/世界俳句会理事長）

恩田侑布子（俳人/文芸評論家）

アビゲール・フリードマン（俳人/CEO, Wisteria Group）

アラン・ケルヴェレン（俳人/俳句研究家）

<日仏ダイアログとは>

様々な催しが、パリ中、フランス中で開催される「ジャポニスム 2018」の会期を通じ、日本とフランスの接触と交流の歩みや 両国共通の課題への取り組みをテーマに、シンポジウムや講演、セミナーを実施します。回ごとに文学、俳句、歴史、芸術、社会科学等の切り口を設定し、「ジャポニスム 2018」に至る経緯と意義について日仏の専門家が共に考察し、語り合います。

日本のものづくりの原点、日本各地で長い時間をかけて受け継がれてきた日本の匠の技と美を、工芸品の展示や職人による製作実演とワークショップ等多彩な企画で総合的に紹介します。

伝統工芸シリーズ

伝統と先端と—日本の地方の底力

日本各地に伝わる伝統工芸こそ、日本のものづくりの原点です。その繊細なデザインと緻密な作り、高い品質は、海外からも高い評価を受け続けてきました。「ジャポニスム 2018」においても、それぞれの土地に深く根ざし、長い時間をかけて受け継がれてきた、日本の匠の技を、工芸品の展示、職人による製作実演とワークショップ、講演、映像上映、シンポジウムなど、多彩な企画で総合的に紹介します。

クレアパリと国際交流基金の共催の『伝統と先端と—日本の地方の底力〜』は、2019 年の 2 月 5 日から 16 日までパリ（パリ日本文化会館）、20 日から 24 日までナント（エスパ・コスモポリス）において開催される、日本の地方に根付く伝統工芸をテーマとする企画です。絹・繊維・ガラス細工・漆器・鉄器・陶器・銅器・木細工に和紙など多岐にわたり紹介します。

15 の日本の地方自治体が参加、250 種類に及ぶ作品が出展され、お客様参加型のワークショップ、講演会や映画上映などのイベントが催されます。

上述のパリ日本文化会館で行われる展示と並行して、オペラ地区 Discover Japan においても 2019 年の 2 月 5 日から 16 日まで展示と販売が行われます。

参加自治体：

【展示（パリ、ナント）】

青森県、岩手県、鶴岡市（山形県）、富岡市（群馬県）、所沢市（埼玉県）、新潟市（新潟県）、富山県、高岡市（富山県）、福井市（福井県）、富士吉田市（山梨県）、岐阜県、田原市（愛知県）、大阪府、奈良県、真庭市（岡山県）、香川県、熊本市（熊本県）

【企画イベント（パリ）】

青森県、岩手県、富岡市（群馬県）、新潟市（新潟県）、富山県、高岡市（富山県）、富士吉田市（山梨県）、岐阜県

【企画イベント（ナント）】

青森県、富岡市（群馬県）、新潟市（新潟県）、富山県



報道関係者からのお問い合わせ先：

（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

高校生プレゼンテーション発表会

「日仏交流 この人に注目～ジャポニスム 2018 につながる人と歴史」

「ジャポニスム 2018」期間中に行われる様々なイベントや書籍などを通じて、仏の高校生が自分たちで調べ、考えたことを日本語で発表します。テーマは、日本とフランスの交流の歴史を築き上げた人物たち。フランス語を学ぶ日本の高校生も初めて参加します。



世界の柔道大国である日本とフランスが、子どもから指導者まで、老若男女さまざまなレベルでの柔道交流を深めます。

柔道 ジャポニスム 2018 JITA-KYOEI PROJECT

4. 展示、形のデモンストレーション

毎年パリで開催される国際柔道大会「グランドスラム・パリ」の機会を活用し、講道館所蔵の日本刀や、嘉納治五郎師範はじめ柔道の歴史を紡いできた柔道家ゆかりの品々や写真、書などの展示のほか、講道館専門家が真剣を用いた「極の形」のデモンストレーションを行います。



「日本の食と文化を楽しむ」シリーズ

日本のお酒試飲の夕べ（第2弾）

海外における日本産酒の普及については、関係者・機関がそれぞれの強みを生かして様々な取組を展開しているところですが、今回はこれまで特に日本との接点がなかったり、日本酒になじみのなかった層もターゲットにして、プロのフランス人ソムリエによる日本酒レクチャーも組み込んで、日本酒の飲み方・味わい方から丁寧に説明します。

参加するのは、公募で選定した新潟県、佐賀県、広島県、石川県、島根県、奈良県の6県で、第1弾の11月には、毎回異なるバーを会場に、新潟県、佐賀県、広島県の3県を取り上げました。各県のPR映像の上映、酒米・精米歩合といった日本酒を知るうえで欠かせない基礎知識の解説も交えつつ、バーの常連客から日本酒愛好者まで幅広い皆様に日本酒を学び、楽しんで頂きました。なかには、3回とも参加された方もいらっしゃいました。



第2弾では石川県、島根県、奈良県の残り3県を取り上げます。

石川県：第4夜 1月24日（木）18：00～20：00 会場 Le Rouge et le Verre à Turin (28 rue de Turin 75008 Paris)

島根県：第5夜 2月11日（月）18：00～20：00 会場 Virtus (29 rue Cotte 75012 Paris)

奈良県：第6夜 2月25日（月）18：00～20：00 会場 Cave « Soif d'ailleurs » (38 rue Pastourelle 75003 Paris)

※詳細は別添の1月15日付プレスリリースをご覧ください。

「日本の食と文化を学ぶ」シリーズ

日本食アトリエ〈子供向け〉

子供が楽しみながら、現地で入手可能な材料で気軽に調理できる体験ワークショップ。3回シリーズの最終回は、「どら焼き」を取り上げます。

講師：村田崇徳（和菓子パティスリーMARUTOMI Paris 主人）

茶の湯に関する講演会、茶会、映画上映等を組み合わせて企画して、見て、聞いて、体験することを通じ、茶道の「和敬清寂」の精神を伝え、日本の伝統文化を代表する茶の湯の美学を味わう機会を提供します。

報道関係者からのお問い合わせ先：

（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

茶の湯

「ジャポニスム 2018」の会期を通じ、折に触れて茶の湯を紹介するさまざまな機会を設けることにより、人を敬い、和を大切に、物事に動じない、茶道の精神「和敬清寂」をパリの人々に伝えます。長年継続しているパリ日本文化会館での茶道体験講座や茶道教室に加え、「ジャポニスム 2018」に際しては特別に、茶会や講演会等を予定しています。

見て、聴いて、体験することを通して、「亭主」と「客」の間に生み出される人間的なぬくもりを体感し、日本の伝統文化を代表する茶の湯の美学を味わう機会をパリの人たちに提供します。



【茶会】

日時：2月23日（土）、24日（日）①14：00～ ②14：30～ ③17：00～

会場：パリ市立プティ・パレ美術館 南パビリオン

【講演会】

日時：2月23日（土）、24日（日）15：00～16：30

会場：パリ市立プティ・パレ美術館 オーデイトリウム

講師：伊住 禮次朗氏（一般財団法人今日庵 茶道資料館副館長、今日庵文庫長）

内容：

①「茶の湯を学ぶ～日本文化の入り口」

茶道とは何か。茶事の流れなどの前提から、その中で大切にされていることなど精神・思想的側面を紹介。

②「日本の喫茶文化」

喫茶文化が日本に招来してから利休の登場まで、茶道具の展開も取り上げながら文化史・美術史的側面を紹介。

●開催中の公式企画ラインナップ

◀展覧会▶

ルーブル美術館ピラミッド内 特別展示 名和晃平 彫刻作品 “Throne”

期間：2月18日（日）まで 会場：ルーブル美術館・ピラミッド内

「ジャポニスムの150年」展

期間：3月3日（日）まで 会場：装飾美術館

「藤田嗣治：生涯の作品（1886 - 1968）」展

期間：3月16日（土）まで 会場：パリ日本文化会館

「古都奈良の祈り」展

期間：3月18日（月）まで 会場：ギメ東洋美術館

【特別企画】パリ東京文化タンデム 2018 アール・ブリュット ジャポネ II

期間：3月10日（日）まで 会場：アル・サン・ピエール美術館

「ジャポニスム 2018：響きあう魂」とは

日仏友好160年にあたる2018年より、両国政府間合意に基づき、芸術の都フランス・パリを中心に、大規模な日本文化・芸術の祭典「ジャポニスム 2018：響きあう魂」を開催中。パリ内外の100近くの会場を舞台に、約8か月間にわたり、美術展、舞台公演、映画、その他食や工芸など日本人の日常生活により密着した文化まで含め、さまざまな日本の芸術と文化を、古典から現代まで幅広く紹介します。会期を通じ、約70の公式企画を実施。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を前に、日本文化の多様な魅力をパリに、またパリを通して世界に向けて伝えます。

会期：2018年7月～2019年2月

事務局：独立行政法人国際交流基金

公式ウェブサイト：<https://japonismes.org/>



ジャポニスム 2018

報道関係者からのお問い合わせ先：

（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp